

## 普及活動情勢報告（平成29年5月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

### 普及が支援する活動が発表される ～「4.29 とさやまの日」～



土佐山柚子生産組合による  
スローガン表彰式  
「みんなでつなごう ゆずのバトン」

4月29日、とさやま夢産地パーク交流館「かわせみ」において、第5回「4.29 とさやまの日」が開催されました。本大会は土佐山地域の地域づくりを目指して住民主体で開催されている大会です。

第1部の実践発表で、発表者5名のうち3名が、これまで普及所も支援してきた活動を発表。土佐山柚子生産組合のユズ産地振興、夢産地とさやま開発公社の複合経営拠点活動、農業創造セミナーから生まれた農家レストラン「いっちいの木」。これまでの経過や課題、今後の取り組みなどを各代表者が発表されていました。

これらの活動は、今年度の普及計画の総合課題や一般課題に位置づけ、さらなる発展に向け計画的に支援を行っていきます。

### 新品目に挑戦するぞ！！ ～JA 高知春野甘長とうがらし現地検討会～



遮光資材について検討する参加者

JA 高知春野管内では、H29年3月から、キュウリの後作品目として甘長とうがらしの栽培に取り組んでいます（4戸、約15a）。5月12日に初めての現地検討会が開催され、15名が参加しました。

普及所からは、遮光資材や仕立て方法、樹勢の判断基準について説明し、その後、参加者全員で捻枝作業や出荷規格の確認をしました。生産者からは「キュウリと側枝の出方が違うから戸惑う」、「また勉強の機会を設けてほしい」といった声が聞かれ、甘長とうがらしへの関心の高まりがうかがえました。

普及所では今後も、現地検討会や巡回指導を通じて新品目の安定生産に向け支援します。

### 高知の野菜を楽しく学ぼう！ ～朝倉小学校出前授業～



野菜体操をする生徒達

5月15日、朝倉小学校の2年生総勢86名を対象に出前授業を行いました。

普及所からは多様な高知野菜を紹介するとともに、クイズを交えながら野菜の生育や天敵昆虫の役割について授業を行いました。児童たちは「高知野菜11人兄弟」の手遊びや「高知野菜体操」を踊って楽しみながら高知野菜を学習しました。

その後、校内のほ場にてナス、ピーマン、ミニトマトの植えつけを行いました。生徒からは「夏野菜カレーを作る！」という声などが出、収穫を楽しみにしている様子でした。

### 産地ブランドを守るために ～針木ナシ若手の会～



作業をしながら参加者全員で協議

5月16日、針木地区で新高梨を栽培している30代を中心とした若手生産者4名を対象に新高梨の現地検討会を開催しました。

まず、各戸の管理方法で困ったことや疑問点を聞き、それに応じて、普及所から摘果や有てい果処理、芽かき、摘芯を実際に作業しながら説明しました。また、疑問点を経験的に解消するために、有てい果の処理方法や残す果実の違いが収穫果にどのように影響するかを果実にラベル付けし、観察していくようにしました。

普及所では、ブランドを守るためにも栽培経験の少ない生産者が早く技術習得できるよう、今後も現地検討会を行っていきます。

### 蒸し込み処理を徹底しよう！ ～黄化えそ病対策の徹底巡回～



関係機関の巡回前の打ち合わせ

5月18日、JA高知春野きゅうり部会を対象に、JAと普及所の職員、計10名が5班に分かれて、黄化えそ病対策の徹底を呼びかける巡回を行いました。合計29戸の生産者に、今作の黄化えそ病の発生状況などを聞き取りしたうえで、資料を配布しながら7日間以上の蒸し込みの重要性を呼びかけました。

普及所では、再度JAと連携して全戸の巡回指導を行うことを検討しています。また、巡回指導の結果を6月の黄化えそ病対策協議会で報告し、生産者の黄化えそ病対策についての意識向上に取り組んでいきます。